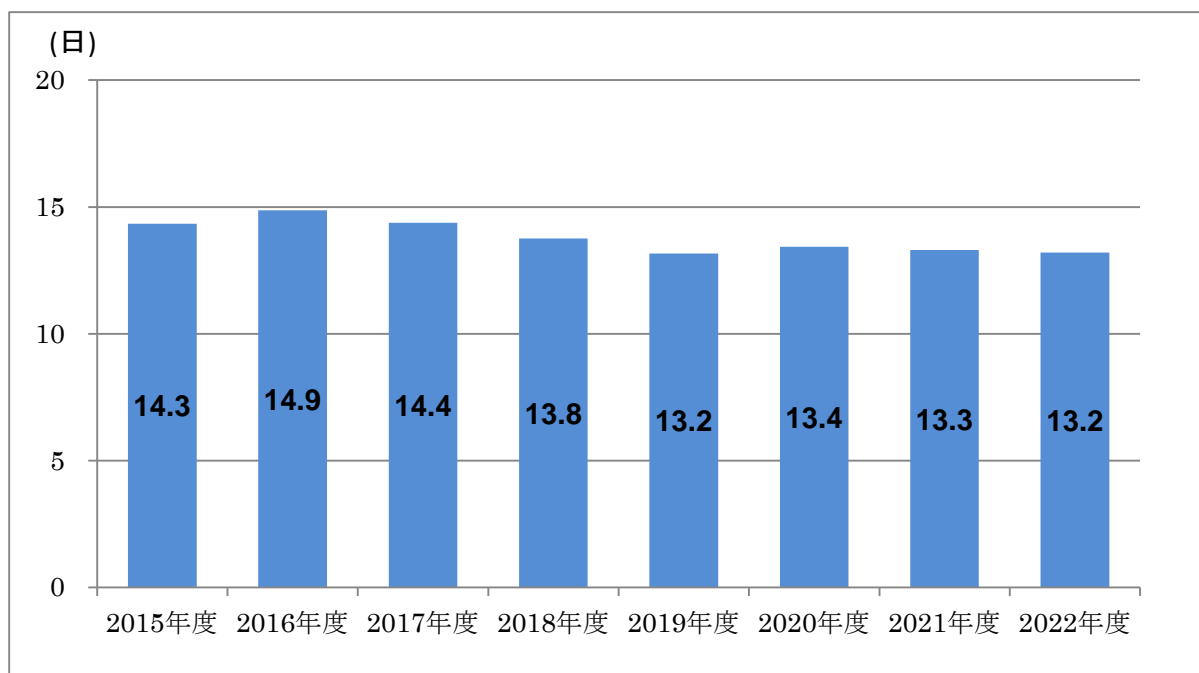


平均在院日数（急性期病棟）



病床稼働率と同様に病院の経営指標の一つである平均在院日数は、どの施設においても重要な指標として注目される項目である。また、国が打ち出す方針では、病院機能分化として急性期病院の平均在院日数は、更なる短縮を推進する傾向にある。

当院においても2016年度以降、緩やかに短縮しており、2022年度は前年度と比較し0.1日短縮し、13.2日となった。

急性期病院としての役割を果たすべく、クリニカルパスの利用を推進し、医療の質を担保した上で、在宅復帰できるような適切な在院日数を目指す。

データ提供 医療事務室入院医事課